

令和6年11月 会派きらめき市民クラブ 行政視察結果報告書

・東京都青梅市

視察者 関口武雄、坂本俊夫、福田武彦、高田正人、堀内真理子、横田正芳
視察場所 東京都青梅市 青梅市役所及び市内戸別収集現地
視察日時 令和6年11月22日(金) 13時30分より
視察項目 ごみの戸別収集について
説明者 青梅市環境部 部長 川島 正男 氏
環境部 清掃リサイクル課 課長 木下 政廣 氏
環境部 清掃リサイクル課 ごみ減量推進係 係長 渡辺 知彦 氏
環境部 清掃リサイクル課 清掃係 係長 白鳥 拓也 氏

視察目的

ごみの減量や資源化等の諸問題の解決方法の一つとして、戸別収集を四半世紀以上行っている青梅市の取組を、実際の収集現場も含めて視察する。

内容

[経緯]

青梅市では昭和42年度よりダストボックス収集制度を実施していたが、衛生面や不法投棄の問題の解決や、ごみ減量化・資源化を進めるため、平成10年10月1日よりごみの有料化、戸別収集を開始した。

[収集方法、内容]

戸別収集の対象者数は不明だが、対象世帯数は令和6年10月1日現在で65,984世帯である。また、共同住宅については、専用の集積場にまとめて排出となる。戸別収集は市内全域を基本とするが、山上の集落等で収集車両の通行が困難な地域についてはステーション方式を採用している。

ごみは13種類に分別し、年末年始を除く月曜日から金曜日(祝日含む)で行っている。排出場所は道路に面した自宅敷地内の収集しやすい場所に、収集日の午前8時までに出す。収集時間は午前8時から午後4時まで。指定収集袋は燃やすごみ、燃やさないごみ、容器包装プラスチックごみの3種類で色分けし、容量は5Lから40Lまでの4種類を作成、いずれも有料である。

収集車両は燃やすごみで塵芥収集車28台、燃やさないごみで塵芥収集車11台、資源ごみ用の平ボディトラック16台の合計55台体制で運用。いずれも2トンクラスで、各車2名体制である。ごみの収集漏れに対しては、当日午後5時までに連絡があれば、当日中に対応する。また身体的な理由で道路との境までごみを排出できない場合は、収集業者と調整の上、玄関先などへの排出を認めているケースはあるとのこと。但し、室内までの入室は行わない。市内在住の外国人向けに、6か国語で分別収集の案内を市民課窓口で配布しているほか、必要に応じてやさしい日本語版の案内も配布している。

[費用、委託契約]

令和5年度におけるごみ収集運搬委託料の総計は973,803,030円であり、内訳として燃やすごみ437,661,543円、燃やさないごみ214,095,459円、資源ごみ317,767,468円、収集車両運行困難地域4,278,560円である。1人1日当たりのごみ排出量は令和5年度で730g、1人当たりのごみ処理費用

及び個別集運搬費用は令和5年度で22,128円である。

委託業者については5年ごとに一部の地域を競争入札にかけ、一定の競争原理を働かせるとともに、収集漏れが増えるなどの市民生活に影響が出ないように、その他の地区については単年度の随意契約を結んでいる。

ごみ袋は有料化しており、その金額の根拠としてはごみ処理費の3分の1負担としているとのことである。

[問題点、課題等]

カラス等にごみ袋を荒らされるといった鳥獣害や、強風時などにごみが散乱してしまうことがある。また、収集の遅延や収集漏れなどが発生する場合がある。ごみの中間処理施設周辺では時折渋滞が発生する場合があるので、左折侵入や構内一方通行、誘導員の配置などの対策を講じている。不法投棄については、職員による不法投棄ごみの回収及びパトロールを2人体制で毎日実施し、悪質な場合は警察とも連携して対応している。不法投棄されやすい場所には、不法投棄禁止の看板を設置するほか、市の広報紙やホームページにおいても啓発を行っている。

高齢者や身体に不自由のある方は家の前まで出せないという問題があり、今後増えていくと予想されるが、福祉部局と連携して対応していきたいとのことだった。

所感

ごみの戸別収集には、排出者が明確になり分別率の向上、ごみの減量が期待できる。しかし、プライバシーの問題や、収集に対する経費や手間が増加することもあり、検討しなければならない課題は多い。青梅市の戸別収集事業について、実際の収集現場の視察もでき、また手法や期待できる点、また課題点等を多く学ぶことができ、非常に有意義な視察であった。

東松山市も新ごみ処理施設を検討するにあたり、並行してごみの減量、資源化も推し進めなければならない。また高齢化が急速に進む現状では、自宅から離れた集積所まで、ごみを出すこともままならなくなってしまう市民が増えてくるということも予想される。これらの諸問題を解決するための手段・方法として、ごみの戸別収集も検討すべきであると考える。今後も引き続き、ごみ問題に関して検討・提案していきたい。

